

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	齋藤 あき 【ライフサイエンス専攻 平成24年度生】	<p>食行動は健康に影響する大きな因子であり、個人の嗜好から社会環境まで、広い範囲でライフスタイル因子の影響を受ける個人の行動である。個人の嗜好については「何を食べるか」から、近年では「どのように食べるか」といった食行動と健康との関連が着目されている。学位申請者は、日本人2型糖尿病患者403名を対象とした検討において、「早食い」が、BMI高値に関連するものの血糖コントロールには関連しないことを明らかとした(Apertureに発表)。さらに学位論文では、社会環境因子のうち、収入や教育、職業といった社会経済因子、および外食行動に着目し、これら因子と、肥満や食選択の関連性について検討を行なった。その結果、(1)教育レベルが男女ともに肥満に関連し、さらに女性では世帯収入も肥満に関連すること、(2)男性では世帯収入・教育レベル・就業状況・家族との同居などの因子が、野菜の摂取量の増加に関連する一方、女性では就業状況が、野菜や果物摂取量の減少に関連すること、(3)女性では外食頻度が高いと野菜類・きのこ類・海藻類などの摂取が少なくなり、また肥満である確率が増加するが、男性ではその関連は見られず、外食が肥満や食選択に与える影響は女性の方が大きいこと、などを明らかとした。</p> <p>本論文は日本人の健康維持や肥満制御のための食について貴重な情報を提供するものであり、学位論文として十分な内容と水準を備えていると判断した。第一回審査会では論文内容の審議がなされ、口頭試問を行なうことを可と判断した。第二回、第三回審査会では申請者の出席のもと口頭試問がなされ、申請者は質疑に対して適切に回答し、後日加筆修正を行なった訂正論文を提出した。以上の審査の過程をふまえて行なわれた公開発表(3月3日)においても、審査員からの質疑に対して的確な対応がなされ、最終試験も合格と判断した。よって、審査委員会は本論文を本学人間文化創成科学研究科の、博士(生活科学)、Ph.D. in Nutrition の学位を授与するに相当する論文とである判断した。</p>
論文題目	体格および食選択に関連するライフスタイル因子の検討	
審査委員	(主査) 准教授 飯田 薫子	
	教授 近藤 和雄	
	准教授 赤松 利恵	
	教授 鈴木 恵美子	
インターネット公表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否) ○ 「否」の場合の理由 <ul style="list-style-type: none"> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="radio"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	